

武技

〔清水物語〕下何事も佛の方便にまかせ、正直なるこそよけれ、なま兵法は大疵のものとぬ、ちごくのあたりあらあぶなといふ、

〔古今著聞集〕興言利口建長元年閑院殿焼失の次日、宮左衛門なにがしとかやいふもの、ほんのくぼに太刀はき、袖く、りて、昨日の焼亡に、醍醐に候所にまかり候てはせまいらず候とて、大納言

の二品のつばねへ参りたりける、人々平給する事かぎりなし、

〔嵯峨野物語〕余良基此道鷹の事はさらにわきまへしらす、たゞ舊記を披覽の次に、さることありしとおもふことばかりをしるし侍なり、はたけすいれんとかやの風情ばかりおほく侍り、下

略

飲食

〔源平盛衰記〕三十三光隆卿向木曾許、附木曾院参頑事

木曾モ其時意得テ、奉入見参ケリ、暫ク物語シ給ヒテ、木曾根井ヲ招テヤ給ヘナン、テマレ饗申セト云、中納言淺猿ト思ヒテ、只今不可有宣ケレ共、イカゞ食時ニ座タルニ、物メサデハ有ベキ、食ベキ折ニ、不食バ、糲ナキ者ト成ナリ、トク急ゲ急ゲト云、

〔十訓抄〕三第三不悔人倫事

是はすゝみて、人をあなづるにはあらねども、思はぬ外の事なり、これらまでに心すべきにや、藪にはかうの物といへる兒女士がたとへむねをたがへざりけり、

〔松屋筆記〕九十一藪にかうのもの

按、おもひかけぬ藪の中に、馥郁たる香物のありしたとへ也、香物は、今の食料の漬物にも限らず、すすべて香はしき物といふ義なるべし、

〔塵袋〕九一酒ハ本心ヲアラハスト云フハ所見アル歟略中

コレハ本心ヲアラハス心也、學生ノエイタルハ、面白キ事ヲモイヒ、才覺ヲモハキ、武士ノエイタ